



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



静岡新聞

記事を読んで、問いに答えなさい。

2022年12月1日朝刊



さらさらと茶畑が広がる11月下旬、入間市並木地区に茶畑が点在する。11月下旬、入間市

令和の静岡茶

・23

第6章 他産地の知恵

③ 埼玉 — 進む6次産業化、企業協業

茶業に興味を持った理由は「作り手によつて色や味わいが大きく異なり個性がある」と感じたから。妻との共同作業で自前のウェブサイトを構築。ケーキ屋や入浴施設など、煎茶と縁がなかった店舗での取り扱いを広げた。休日は都部のマルシェに出店し、認知度を上げる。

茶の葉や花で作るクセサリや、一番茶を原料とする入浴剤といった個性的な品も開発した。祝日も記念日に贈る茶の詰め合わせ、お茶の福

「味の狭山」訴求力健在

袋など女性顧客に向けたアイデアを具現化し、手応えを感じつつある。

「自分が感じたいお茶のおもしろさは、やはり万次第で消費者にも伝わるはず」。新茶期は早朝の農作業後に自宅で働くハードスケジュールになるが、充実感も感じるといふ。

入間や狭山、所沢の各市などで栽培する狭山茶は静岡茶、宇治茶と並ぶ日本三大銘茶の一つとされる。色は静岡香りは宇治より、味は狭山でとどめさす」と言い伝わるように、高温で加熱する狭山火

入れで濃い味わいの茶を作ってきた。近年はさらさらの味に、6次産業化による商品開発・販売の動きが活発だ。大手企業との協業も進む。

伊藤園は今年4月、農業法人の首都圏アグリファーム（入間市）と連携し、荒茶工場を稼働させた。地域の耕作放棄地を集約して茶園に再生させ、主力商品「おいお茶」などの原料として茶葉を買い取る仕組みで、第2工場の建設も視野に入れる。

伊藤園の製造工場は静岡や兵衛に在り地とする。茶葉関係者は「荒茶の個性を引き上げる卸問屋が集まる静岡との距離の近さが、狭山茶の持続的発展に重要」としている。

◻ 埼玉県の茶業 江戸時代に地域の特産物として茶栽培が普及した。2020年の荒茶生産は全国10位の754トン。茶園面積は3255haで8位。国内主要茶産地の中では北に位置し、果肉の厚い茶が育ち、やぶきやさやまかおりなどの品種がある。

①記事中には、30代から40代の働く女性を主な顧客層に据えた茶の関連商品開発に取り組む埼玉県での事例が、述べられている。具体的事例について、二つ説明しなさい。

[]

②日本三大銘茶といわれるものは、何か。記事の中から三つ抜き出しなさい。

() () ()

③埼玉県の茶業にとって、静岡県とはどのような重要な関わりがあるのか。次の語句を必ず使って、説明しなさい。

< 荒茶、卸問屋 >

[]

年 組 名前

作問者: NIEアドバイザー 伊藤大介 (静岡聖光学院中学・高校 教諭)

(中学校～高校/社会、総合)



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



静岡新聞

記事を読んで、問いに答えなさい。

解答例

2022年12月1日朝刊



空らるるで茶畑が広がる11月下旬、入間市並木地区に茶畑が広がる。11月下旬、入間市

埼玉真南部の丘陵地「トトロの森」近くには茶畑が点在する。生産・加工・販売を一貫して担う6次産業化に力を注ぐ茶農家、ささの屋（入間市）は30、40代の働く女性を主な顧客層に据えて茶に関連した商品開発に取り組む。「食卓を彩る雑貨」という側面がある。企画・営業担当の石尾祥馬さん（35）が、鳥の絵をあしらったモダンなサイインの商品を説明する。2018年から、会社員との一定のわりで妻の美家で茶作りに励む。

令和の静岡茶

・23

第6章 他産地の知恵

③ 埼玉 — 進む6次産業化、企業協業

茶業に興味を持った理由は「作り手によって色や味わいが大きく異なり個性がある」と感じたから。妻との共同作業で自前のウェブサイトを構築し、ケータリングや包葉サインを企画。ケータリングや入浴施設など、煎茶と緑がなかった店舗での取り扱いを広げた。休日は都市部のマルシェに出店し、認知度を上げる。

茶の葉や花で作るアクセサリや、一番茶を原料とする入浴剤といった個性的な商品も開発した。祝日や記念日に贈る茶の詰め合わせ、お茶の福袋など女性顧客に向けたアイデアを具現化し、手応えを感じつつある。

「自分が感じたいお茶のおもしろさは、やはり方次第で消費者にも伝わるはず」。新茶期は早朝の農作業後に自宅で働くハードなスケジュールになるが、充実感も感じるといいます。

入間や狭山、所沢の各市などで栽培する狭山茶は静岡茶、宇治茶と並ぶ日本三大銘茶の一つとされる。色は静岡香りは宇治より、味は狭山でとどめさす」と言い伝わるように、高温で加熱する狭山火入れで濃い味わいの茶を作ってきた。近年はさらさらの葉の原料として茶葉を買い取ると組み立て、第2工場の商品開発・販売の動きが活発だ。大手企業との協業も進む。

伊藤園は昨年4月、農業法人伊藤園アグリファーム（入間市）と連携し、荒茶工場を稼働させた。地域の耕作放棄地を集約して茶園に再生させることが重要」としている。

「味の狭山」訴求力健在

①記事中には、30代から40代の働く女性を主な顧客層に据えた茶の関連商品開発に取り組む埼玉県での事例が、述べられている。具体的事例について、二つ説明しなさい。

茶の葉や花でアクセサリをつくること。

二番茶を原料として入浴剤をつくること。など

②日本三大銘茶といわれるものは、何か。記事の中から三つ抜き出しなさい。

(静岡茶) (宇治茶) (狭山茶)

③埼玉県の茶業にとって、静岡県とはどのような重要な関わりがあるのか。次の語句を必ず使って、説明しなさい。

< 荒茶、卸問屋 >

(例) 荒茶の個性を引き上げる卸問屋が集まる静岡県と埼玉県の距離が近いこと、埼玉県にとって狭山茶の持続的発展のために必要な企業の工場と協業できること。

年 組 名前

作問者: NIEアドバイザー 伊藤大介 (静岡聖光学院中学・高校 教諭)

(中学校～高校/社会、総合)